

東京電力(株)福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置等に向けた
中長期ロードマップ・セミナー
(結果概要)

平成24年12月25日
政府・東京電力中長期対策会議運営会議事務局

1. 開催概要

東京電力(株)福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置については、これまで「中長期ロードマップ」に従い、プラントの安定状態を維持しながら、当面の目標である4号機使用済燃料プールからの燃料取り出しに向け、建屋上部の瓦礫撤去を終了するなど、着実に計画を進めている。

今般、同ロードマップの策定から約1年を経過したことから、プラントの現状や課題に対する取組状況を住民の皆さまにご報告すると共に、今後の取組に当たって広く御意見を頂戴する場として、本セミナーを開催した。

2. 参加者

福島県内の住民の方々をはじめとして、約40名の参加を得た。

3. 日時・場所

日時：平成24年12月19日(水) 10:00～12:00

場所：コラッセ福島(福島市)

4. プログラム

別紙1参照

5. 主な議論

資源エネルギー庁及び東京電力からの説明の後、参加者との間で意見交換が行われた。主なコメントは以下のとおり。

- ・帰還困難区域に家があり、帰還できるようになるかに関心。廃炉に向けた取組に関する情報が少なく、よくわからない。安全性が心配。注水と地下水流入で800トンの水が毎日入ってくるとのことだが、汚染水が漏れて発電所から外部に流れ出ることはないのか。地下水位と建屋の海拔との関係についてもよくわかるような資料を出してほしい。との意見があった。
これに対し、汚染水からセシウムを除去し、貯蔵タンクで保管している。タンクの増設も行い必要な保管量は確保している。漏えい対策を行っている。ご指摘の資料については今後対応する。との回答を行った。
- ・従事した作業員数について説明がわかりにくく、再度説明してほしい。との意見があった。
これに対し、1ヶ月の期間でみて、実際に1日でも従事した作業員数が約5,500人であることにに対し、従事登録されていた作業員数が約8,000人であり、要員が確保されている。との回答を行った。

- ・作業員の被ばく管理は重要。データベース拡充の説明があったが、これまで被ばくした作業員の管理はできているのか。との質問があった。
これに対し、被ばく線量管理は、これまでもしっかりとデータベース管理されている。その上で、作業員がどの協力企業でどのような作業に携わっているかについての情報と統合して、しっかりと把握していくための拡充を図っている。との回答を行った。
- ・福島第一原子力発電所5、6号機の廃止措置、福島第二原子力発電所の廃炉は行うのか。との質問があった。
これに対し、現在は、福島第一原子力発電所5、6号機、福島第二原子力発電所は安定冷却状態を維持するために取り組んでいる。廃炉すべきとのご意見をいただいていることは承知しているが、どのようにするかは今後決めていくこととなる。との回答を行った。

(以上)

東京電力(株)福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置等に向けた
中長期ロードマップ・セミナー
(プログラム)

10:00 【開会】司会：資工庁 荒川福島双葉担当官事務所長

挨拶：資工庁 舟木原発事故収束対応室長

【冒頭説明】東京電力（株）福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置
等に向けた中長期ロードマップに基づく政府の取組

説明者：資工庁 舟木原発事故収束対応室長

【現状報告】主要課題への取組状況

(テーマ1) プラントの安定状態維持に向けた取組

説明者：東京電力 山下福島第一対策担当部長

(テーマ2) 滞留水への多面的な対応

説明者：東京電力 後藤電気・機器設置G課長

(テーマ3) 4号機使用済燃料プール・原子炉建屋の健全性確保と燃料取
り出しに向けた対応

説明者：東京電力 徳森燃料対策G課長

東京電力 佐藤土木・建築設備GM

【意見交換】

(※) 参加者の皆さまから、ご意見・ご質問を発言

12:00 【閉会】

(参考) シンポジウムの様子

